

【保土ヶ谷区】令和3年第1回区づくり推進横浜市議員会議 議事録

開催日時	令和3年2月5日 午前10時00分 ～ 午前11時35分
場 所	保土ヶ谷区役所本館4階 401会議室
出席者	<p>【座 長】 齊藤 伸一 議員 【議 員】 青木 亮祐 議員 森 ひろたか 議員 北谷 まり 議員 磯部 圭太 議員 【保土ヶ谷区】 出口 洋一 区長 安藤 浩幸 副区長 伊澤 明 福祉保健センター長 小林 悦夫 福祉保健センター担当部長 秋山 禎治 保土ヶ谷土木事務所長 小野寺 勝 保土ヶ谷消防署長</p> <p style="text-align: right;">ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和3年度保土ヶ谷区編成予算案について 2 その他</p>

議題1 令和3年度保土ヶ谷区編成予算案について

(1) 信頼される区役所づくりの推進について

北谷議員：

コロナの影響による生活困窮に伴い、税金や保険料等の支払が非常に苦しくなっている方が増えていると思うが、税金や保険料等は仕組みが非常に複雑であり、なかなか相談者のご理解が進んでいない。区役所は、ぜひそういった方々に寄り添って、丁寧に対応していただけるようお願いしたい。また、様々な減免制度、猶予制度があるため、丁寧に説明してほしい。

(2) 障害者地域支えあい連携推進事業 多職種チーム支援について

北谷議員：

「精神障害者に係る相談件数が年々増加傾向」という点について、具体的な数字を教えてください。

齋藤高齡・障害支援課長：

発言の
要旨

保土ヶ谷区の窓口の相談で、平成29年度は5,870件、令和元年度には6,037件になっている。

北谷議員：

アウトリーチ支援は望まれていた取組だと思うが、アウトリーチ支援の対象者はどうやって決めていくのか。

齋藤高齡・障害支援課長：

現状でも、治療中断者や未治療の方がいらっしゃる家庭からのご相談は日々寄せられており昨年度は70件近く該当する方を把握している。多職種支援チームにおいて検討し、その中から対象者を決定する。

北谷議員：

多職種支援チームは何チームで、訪問の回数ほどのくらいの頻度を考えているか。

齋藤高齡・障害支援課長：

多職種支援チームは現状1チームであり、チームとして動くのは月2回

を想定している。訪問の中で、ご家族の方からの相談や、関係機関の方との調整があるかもしれないため、1回の活動で訪問できる件数は状況によって変わる。

齊藤議員：

アウトリーチ支援は本当に大事な事業で、「断らない相談支援」は努力義務だが、国としても推進している。1件の訪問につき3時間かかる事例もあるなど、支援には時間がかかるが、支援体制が整うまで、区には丁寧な支援をお願いしたい。

(3) ICT 活用支援事業について

森議員：

新規事業の「ICT 活用支援事業」は新たな生活様式を踏まえて、様々な活動への支援を行うと思うが、具体的にどういった活動を支援していくのか。

宮本区政推進課長：

今年度に引き続き、区民向けに ICT 活用に関する研修会を実施する。また、NPO 法人と連携し、WEB 会議を導入したい地域団体等の活動場所に NPO 法人のアドバイザーを派遣する支援を行いたい。さらに、自宅に通信環境がない方でも WEB 会議ができるよう、区民利用施設で貸出用の WEB 会議用の機器を配備するなど、環境整備を進めていく。

森議員：

リモート化はコロナ対策だけでなく、働き方改革にもつながっていくことから、区役所の業務においてもさらに推進するべきと考えるが、区の考えはどうか。

出口保土ヶ谷区長：

この1年を振り返ってみて、一番変わったのは会議のあり方。市内部の会議では WEB 会議がスタンダードになりつつあり、区役所内部での情報共有や意見交換についても、一部の部署ではビジネスチャットを活用し始めている。研修等でも、内容によって E ラーニングで実施するなど、必ずしも集合しなくてもできることがわかってきた。

働き方の多様化についても、フレックスタイム制度の利用が進んだように実感している。特に、区役所では子育て世代の職員が多く、子育ての関係でフレックスタイム制度を利用する職員がかなり増えている。

在宅勤務は、テレワーク対応の端末が各区に2台しかないなど、環境が整っていなかったが、年度内には各課2台に台数が増えると聞いている。それによって、対応できる仕事の範囲が広がるため、今後、各部署の仕事の状況や内容に応じて、試行しながら進めていきたい。

森議員：

リモートワークは適する部署、適さない部署があり、特に、現場を抱えている部署ではなかなか導入が難しいことも理解している。ただ、会議や研修がリモートでも代用できることがわかってきたため、ぜひ推進してほしい。

また、地域の方に関して言えば、ご高齢の方にとって理解が難しい、という課題もある。そのため、ICT 活用支援事業で実施いただくアドバイザーの派遣等、丁寧に進めてほしい。

議題2 その他

(1) 神奈川羽沢南二丁目地区土地区画整理事業の進捗状況について

北谷議員：

羽沢横浜国大駅前開発について、平成27年に上星川小学校で地域説明会が行われた際、高層ビル開発に対する懸念の声があったが、住民の皆さんのご理解を得るために、どのように事業を進めてきたのか。

菊地都市整備局都心再生部長：

説明会では、「地域の方々が横浜国大と連携して活動できるような施設を設けてほしい」、「地域の地場産業をPRできる場を設けてほしい」といったご意見をいただいた。そのようなご意見をふまえ、建物低層部へ地域交流が行えるような施設を設ける方向で計画を進めている。

北谷議員：

ほかにも、交通ターミナルでバス車両の渋滞が発生する点も懸念されていたように思うが、どのように対策するのか。

菊地都市整備局都心再生部長：

その点については、今後も引き続きバス事業者と協議していく。

北谷議員：

今後、地域説明会を開催する予定はあるか。

菊地都市整備局都心再生部長：

今のところ予定していないが、地区連絡会等の場を活用して地域の方から様々なご意見を伺い、今後の検討に生かしていきたいと考えている。

北谷議員：

そのような組織や団体の集まる場だけでなく、地元の方の声をより広く拾い上げられるように丁寧に進めてほしい。

菊地都市整備局都心再生部長：

区役所と連携し、区民の方々のご意見を幅広くいただけるように進めていく。

青木議員：

今後、ST線（相鉄・東急直通線）が開業すると、羽沢横浜国大駅の利便性がさらに向上する。駅周辺地域である羽沢町から峰沢町にかけてのまちづくりの方向性について決まっていることがあれば教えてほしい。

菊地都市整備局都心再生部長：

SJ線（相鉄・JR直通線）、ST線（相鉄・東急直通線）の開業や第三京浜道路のフルラウンド化によって、さらに地域のポテンシャルが高まる中で、どのようなまちづくりをしていくか、利便性を上げていくかはとても重要だと考えている。

市内の狭あい道路の拡幅整備や、安全性の向上、バリアフリーの推進については道路局と連携して進めているが、羽沢横浜国大駅周辺のまちづくりについては、地域の方々のご意見を伺いながら、今後、より具体的なイメージを作っていきたいと考えている。

青木議員：

道路局や区役所の関係部署としっかり連携して、今後の羽沢町、峰沢町が発展できるようなまちづくりを推進してほしい。

(2) 水道局川辺町庁舎（旧中部第二給水維持課）の改修工事について

磯部議員：

水道局川辺町庁舎周辺では、現在様々な開発工事が行われていて、工事車両が密集している。事業者と協議して、地域のご迷惑にならないように最大限配慮してほしい。

また、工事中に限らず、川辺町公園前の交差点はもともと混雑がひどい。川辺町公園の敷地を含めた交差点の形状改良も長期的な課題として検討してほしい。

森議員：

申込手続きを受付ける建物も大事だが、申込手續のペーパーレス化を推進していくことも必要。電子申請の進捗状況について教えてほしい。

二見水道局給水維持課長：

電子申請の受付を昨年の9月から全市展開し、昨年度は約20%、今年度は30%まで申請割合が上がってきた。今後も引き続き周知を進め推進を図っていく。

斉藤議員：

電子申請の推進にあたっては、令和3年度から新設されるデジタル統括本部とよく連携を図ってほしい。

(3) 相模鉄道本線（星川駅～天王町駅）連続立体交差事業について

磯部議員：

星川駅北口のデッキ構想は、昔から地域の方々の期待が大きい構想だった。地上レベルでバリアフリー化されることから、デッキの整備を不要とした判断結果はわかるが、今一度、整備効果が低いと判断した理由を詳しく教えてほしい。

栗本道路局建設課担当課長：

令和元年度に行った星川駅周辺の歩行者動線の交通量調査結果を基に、「地上レベルを歩いている方が、どの程度デッキを利用されるか」についてシミュレーションしたところ、最大4割程度しか転換しないという予測が出た。そのため、十分な整備効果は得られないと判断した。

磯部議員：

技術的にも難易度が高いという点についても詳しく教えてほしい。

栗本道路局建設課担当課長：

デッキの設置には、河川用通路を確保しながら駅と区役所を結ぶ必要があるが、橋脚を設置するスペースに余裕がないことから、技術的にかなり難易度の高い工事になると考えている。

磯部議員：

踏切道等総合対策プログラムが策定された平成13年当時、バリアフリー構想や、星川駅1階の自由通路化の構想はあったのか。

栗本道路局建設課担当課長：

踏切道等総合対策プログラムでは、歩行者のバリアフリー確保の観点あまり重要視されていなかった。平成22年度に星川駅周辺のバリアフリー基本構想ができて、重点地区を地上レベルで結ぶバリアフリー動線を示した。

磯部議員：

不要と判断した理由はわかったが、地域の中にはまだ、星川駅が高架化してデッキができると期待を寄せられている方がいると思う。地域へどのように説明していくのか教えてほしい。

栗本道路局建設課担当課長：

このあと岩間地区連合へ伺い、今のような説明をしたいと考えている。
また、星川駅自由通路や天王町駅YBP口改札ができることや、高架下に歩道が連続してできることから、当初考えていた水準の歩行者の利便性が地上レベルで整備できることについて、広報よこはま保土ヶ谷区版等で

も地域の方々に広くお知らせしていきたい。

磯部議員：

丁寧に説明し、ご理解を得るようにしてほしい。

また、縦割りではなく全庁的に、星川駅前の複合施設「かるがも」の将来像について検討を進めてほしい。

森議員：

新たに整備された星川駅南側の道路には、交通量の問題から道路灯が設置されないと地元の方から伺った。

歩行者が多く通る道路であることから、地元では防犯上の課題認識を強く持たれている。当エリアの防犯対策について教えてほしい。

栗本道路局建設課担当課長：

道路局の立場では道路照明の設置を行っており、基準に沿って交差点にハイウェイ灯という道路照明を設置する計画にしている。

森議員：

交差点に道路照明がついたとしても、交差点までの間は非常に暗く、防犯上の心配がある。市民局の所管になるかもしれないが、新規の防犯対策を含めて検討してほしい。

磯部議員：

星川駅南口の交番前の交差点は、朝夕とも通勤・通学の方がたくさんおり、郵便局の方や地域の方が朝夕の時間に立って見守り活動をしてくださったりしているが、そういう地域の思いに配慮しつつ、安全対策はしっかり検討してほしい。

北谷議員：

以前、地元の方から「星川駅が高架化された直後、電車の音がうるさく聞こえるようになった」という声をいただいたが、列車音の低減など、環境対策は具体的に何を行うのか。

栗本道路局建設課担当課長：

環境影響評価条例の基準に従い、地上を走っていた時の騒音を上回らないよう対策を行っている。例えば、ロングレール化や防振コンクリートの枕木使用によって走行音を落としており、実際には、地上を走っていた時の騒音を下回っていると思う。今後、消音バラストを入れるなどして、走行音の低減を図っていきたいと考えている。

青木議員：

保土ヶ谷公会堂－天王町駅間の高架下は、星川駅周辺と比較して商業利用としてのニーズが小さく、活用が難しそうだと聞いている。しっかり地域の皆様の声を聴きながら、例えば福祉施設や保育施設など、行政としての活用提案ができるよう、検討をお願いしたい。

斉藤議員：

星川駅－天王町駅間の高架化については、近隣住民の皆様が一番我慢しながら、工事を見守ってきてくださった。近隣の方へ丁寧な御礼、情報の周知をしっかりと行ってほしい。

また、活動スペースが区役所に不足しており、かるがもの空間を何とか有効活用できないかのご意見をいただくことがある。有効活用できるように検討してほしい。

デッキができれば、星川駅から、車椅子でもベビーカーでも、あらゆる方が階段を使わずに、区役所と行き来できるようになると期待していた。しかし、地上レベルでのバリアフリー化になると、区役所だけ床が高くなり、階段を使うか少し幅が狭いスロープを使わなければならない状態が続くため、その点の改善はぜひ今後の課題として検討してほしい。

また、山坂の多い保土ヶ谷区では、アシスト付き自転車やバイクを使う方が多く、区役所へ来られる方が自転車やバイクを停める場所がないという話も伺っている。区役所の1階レベルのバリアフリー化とあわせて、駐輪場の増設もぜひ検討してほしい。

(4) 星川駅周辺のバス交通アクセス向上検討事業について

磯部議員：

コロナ禍の影響もあって、交通事業者は経営が苦しく、減便や路線廃止などもやむを得ない状況だ。しかし、地域にとってバス便は重要なインフ

ラである。単に減らされるだけではなく、少しでも区民のためになるように代替ルートを検討してもらおうなど、区役所が窓口となって交渉してほしい。

齊藤議員：

保土ヶ谷区の特徴として、東西は行き来しやすいが、南北は起伏も激しく、移動が難しい。ただ、区役所は区を中心だからこそ、区内どこからでもバス一本で来れるような路線について、区として構想を描いてもらいたい。例えば、狩場や瀬戸ヶ谷の住民の方は一度横浜駅に出て、相鉄線に乗って区役所へ来られている。区民の方がどのような交通ルートを使ってくるのか想像しながらルートを検討してほしい。

(5) 保土ヶ谷駅東口交通広場の再整備について

青木議員：

保土ヶ谷駅東口に手薄な地域ケアプラザや保育所、地域交流施設を含んだ開発計画があると聞いている。開発にあたっては、区と住宅供給公社でしっかりと連携して進めてほしいと考えるが、住宅供給公社と打合せしていることはあるか。

宮本区政推進課長：

県税事務所跡地に整備される建物の中に、保育所、地域ケアプラザのほかにも整備される地域交流スペースについて、働きかけをしている。

具体的には、地域交流スペースの活用方法に関し、地域の方々からご意見をいただき、住宅供給公社へ情報共有を進めている段階だ。

青木議員：

駅前の地域交流スペースは、災害などの緊急事態発生時にも非常に重要な役割を担う。住宅供給公社と区とで連携を強め、良い施設をつくってほしい。

森議員：

自動車の乗降について、保土ヶ谷駅西口では空きスペースで、東口では国道沿いで乗降している場面をよく見かけており、危険だと感じる。交通広場に乗降場所を確保する予定があるのか。

井田保土ケ谷土木事務所長：

交通広場への一般車両の乗り入れは行っておらず、ご指摘の通り、乗降の際は国道1号線に停めていただいているのが実情だ。駅から国道1号線を挟んで広がる交通広場ということもあり、一般車両を寄せる考え方がなかったのではないかと想定している。今のところ、一般車両の乗り入れについては警察との協議を実施していない。

森議員：

今後、保土ケ谷駅東口に福祉、子育て施設が整備される。車いすの方の乗降や保育園の送り迎えなどのシーンも容易に想定できるし、国道の安全確保の観点からも、整備を検討してほしい。

斉藤議員：

保土ケ谷駅東口に新設されるエレベーターのデザインは東海道保土ケ谷宿らしく、素晴らしいものだと思うが、エレベーターから一部のバス乗り場まで、道路の横断が必要になる。横断する歩行者の安全対策について教えてほしい。

井田保土ケ谷土木事務所長：

安全対策は徹底する。まずは歩道に代わるものとして外側線を引き、緑色のカラー舗装を行う。また、横断歩道の白線部分に白光灯を設置し、歩道橋の上から照明を照らすことで、歩行者の視認性を上げる。あわせて、減速ストップの路面標示を設置することで、バスに対する注意喚起を行い、バス乗り場から車道に出る部分には新たに防止柵を設置する。

斉藤議員：

安全対策はしっかりと行ってほしい。バスの乗降場所が変更になると、「自分が乗るバス系統はどこに並べばよいかわからない」という声を聞くことがある。地元の方はもとより、土地勘のない方にもわかりやすい標示の設置を検討してほしい。

備 考